

中学校第1学年 美術科学習指導案

1 題材名 「版画で表す私の唐津くんち」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、『中学校美術科学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編』の第1学年の目標A表現(1)ア(ア)、A表現(2)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕に基づいている。地域の祭りである唐津くんちの「曳山」をモチーフに取り上げることによって生徒の興味を引き、地域の伝統文化から自分なりによさや美しさを感じ取り、表現することができる教材である。単色で刷って表現する版画の技法は構図、形(色面)、線の表現など、作品を構成する様々な造形の要素の働きを制作段階ごとに実感することができる。また、裏手彩色により、生徒が自分の意図に応じた直接的な表現もできる。このようなことから、生徒が表現したいイメージが顕著に表れ、多様な表現が期待できる題材である。

(2) 生徒観

題材の前に実施したアンケートの「美術の授業では夢中になって制作に取り組むことがある」という質問では、89.4%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。しかし、「美術の学習の中で、どの分野が苦手ですか」という質問では、29.4%の生徒が絵画による表現、24.7%の生徒が彫刻による表現が苦手と回答している。理由として、「彫るときに彫り跡が汚くなる。うまくいかない」、「絵の具を使うと水でにじんだり、絵の具の色が変なところに動いたりする」など、発想や構想することよりも創造的に表す技能を働かせて表現することが苦手だという回答が多く、自分の意図に応じて表現することが難しいという思いをもっている生徒が多い。

第1学年では、色の性質、構図、ポスターカラーを利用した平面構成による表現などの学習を行ってきたが、発想や構想したことを基に既習の知識や技能を活用し創意工夫して表現してきた経験は少ない。本題材では、生徒が材料や用具の生かし方を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫して表す、創造的に表す技能を身に付けることができるようにする。

(3) 指導観

本題材では、生徒自身が発想や構想をしたことを基に創意工夫して表すことができるように、学習の過程でアイデアを練り直したり試したりする活動を取り入れた指導を行う。

具体的には、発想や構想の段階では、1人1台端末を活用して意図に応じた構図の練り直しをできるようにする。また、線での描写に着目するために、描いた下絵を検討する際には、マジックペンや筆ペンを使って意図に応じた線の表現が工夫できるようにする。彫りの段階では、制作に入る前に丸や三角、直線などの基礎的な形から彫る練習を行うことで、各種彫刻刀(全5種)が、どのような表現に適しているのかを生徒が理解した上で制作に生かすことができるようにする。刷りの段階では、黒色の単色刷りに加えて、自分の意図に応じて直接的な表現ができるようにするために、裏手彩色による色彩の表現を行う。意図に応じた配色について容易に検討することができるようにするために、刷りの段階まで進めた生徒が自分の作品データと1人1台端末を活用して配色計画を行うことができるようにする。裏手彩色による制作の途中で鑑賞の活動を設定し、生徒が自分の意図を説明したり友達の商品を見たりすることにより、よりよい表現を追求することができるようにする。また、彩色見本カードを活用することで、意図に応じた配色を基に彩色することができるようにする。

指導計画の全体を通して、これまでの学習内容と本題材の学習内容を関連付けて活用することで、生徒が自分の意図に応じた表現方法を工夫しながら創造的に表す技能の向上を図る。

3 題材の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する題材の目標
- 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、曳山の迫力や唐津くんちの情景などを全体のイメージで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
 - 彫刻刀の使い方や単色で刷って表現する方法、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。（「A表現」(2)）
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標
- 曳山を見つめ感じ取った唐津くんちの情景や、曳山の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、画面全体と唐津くんちの情景や曳山との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練る。（「A表現」(1)ア(ア)）
 - 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。（「B鑑賞」(1)ア(ア)）
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標
- 美術の創作活動の喜びを味わい、楽しく唐津くんちの情景や曳山の造形的な特徴を基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、曳山の迫力や唐津くんちの情景などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 彫刻刀の使い方や単色で刷って表現する方法、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>発 曳山を見つめ感じ取った唐津くんちの情景や曳山の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、画面全体と唐津くんちの情景や曳山との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態表 美術の創作活動の喜びを味わい楽しく唐津くんちの情景や曳山の造形的な特徴などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創作活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 題材の指導と評価の計画（全13時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
<p>1. 発想や構想（2時間）</p> <p>●作者の心情や意図に応じた多様な表現について考えるとともに、唐津くんちの情景や曳山の形の美しさを基に主題を生み出す。</p> <p>・複数の版画作品を鑑賞し、作者の心情や意図に応じた多様な表現について考えるとともに、唐津くんちの情景や曳山の造形的な特徴などから感じたことを言葉で書き表し、主題を生み出す。</p>	<p>知</p> <p>▼</p>	<p>発</p> <p>▼</p>	<p>態表</p> <p>▼</p>	<p>知 形や色彩などの効果や全体のイメージを捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】</p> <p>発 曳山を見つめ感じ取った唐津くんちの情景や曳山の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出しているかどうかを見取り、主題が生み出せていない生徒に唐津くんちの情景や曳山の造形的な美しさなどから感じ取ったことや考えたことなどを振り返ることができるようにするなどの手立てを講じる。【ワークシート】</p>

<p>●創造的な構成を工夫して、主題を基に構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に形（色面）、線の表現などの効果と主題との関係について考え、創造的な構成を工夫し、下絵を完成する。 ・完成した下絵を版に転写する。 		<p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">[発]</p> <p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">[態表]</p>	<p>[態表] 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとしたり、主題と表現の工夫について考えようとしたりする意欲や態度、主題を生み出そうとしているかを見取る。できていない生徒に対して鑑賞した版画作品や唐津くんちの思い出を振り返るよう促したり、唐津くんちと自己との関係を考えるよう促したりするなどの指導を行う。 【ワークシート、活動の様子】</p> <p>[発] 主題を基に構図や視点の取り方を検討したり、マジックペンや筆ペンが生む線を生かし、形（色面）や線の表現などの関係について考えたりして創造的な構成を練っているかどうかを見取り、できていない生徒に対して参考作品や設定した主題を振り返ることができるようにするなどの指導を行う。【下絵、転写した版木、ワークシート】</p> <p>[態表] 構想をすることに難しさを感じている生徒を見取り、選んだ唐津くんちの情景や曳山の造形的な美しさを再度見つめて主題を考えるよう促すなどの指導を行う。【下絵、転写した版木、ワークシート、活動の様子】</p> <p>[発] 主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、第三次で再度評価を行う。 【下絵、ワークシート】</p> <p>[態表] 楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとする態度を評価する。【活動の様子】</p>
<p>2. 彫り（4時間）</p> <p>●彫刻刀の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀の基本的な使い方を身に付ける。 <p>・下絵の線などの表現によって彫刻刀を使い分けながら、転写した下絵を彫り、版を制作する。</p>	<p style="text-align: center;">[技]</p> <p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">[態表]</p> <p style="text-align: center;">――</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>[技] 彫刻刀の生かし方などを身に付け、意図に応じて彫刻刀を適切に選び、正しく使っているか見取り、できていない生徒に対して、基礎的な形から彫り方を試したり、必要に応じて彫刻刀の使い方を説明した資料を確認したりすることができるようにして正しい彫り方の指導を行う。【版木の状態、活動の様子】</p> <p>[態表] 彫刻刀の基本的な使い方を身に付け、意図に応じて彫刻刀を選び、彫り方を意欲的に試しているなどの態度を見取り、できていない生徒に対しては、参考作品を見せるなどして表現の工夫についての興味や関心を高めるような指導を行う。【版木の状態、活動の様子】</p> <p>[技][態表] 発想や構想をしたことを基に、意図に応じて身に付けた彫刻刀の生かし方を活用し工夫して表しているかどうかや、意欲的に工夫しているかなどの態度を見取り、できていない生徒に対して表現の意図と彫り方を試したことと関連させて再考できるようにする</p>

<p>4. 鑑賞（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒作品を相互に鑑賞し、作品や自分の活動した体験から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・完成した作品を相互に鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。作品の主題と表現の意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。 ・第1時とは異なる木版画と裏手彩色の技法を用いて制作した作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。 	<p>知 ↓</p>	<p>鑑 ↓</p>	<p>態鑑 ↓</p>	<p>知 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】</p> <p>鑑 態鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることができるかどうかなど、取り組む態度とを見取り、できていない生徒に対して、主題から作品を見つめたり、作者の心情について考えたりすることができるようにするなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容、活動の様子】</p> <p>態鑑 楽しく作品を鑑賞し、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【発言の内容、活動の様子、ワークシート】</p>
<p>〈授業外：題材が終了後〉</p>	<p>知・技</p>	<p>鑑 ↓ 発</p>	<p>態鑑</p>	<p>知・技 完成作品やワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品・木版・アイデアスケッチ】</p> <p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて、見方や感じ方を広げられているかどうかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、下絵、ワークシート】</p>

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は、以下の通りである。

- は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。
- は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。
- は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。
- **ゴシック体**は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。
- **【 】**は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を指す。

6 本時の目標

- ① 発想や構想をしたことを基に、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解し、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。
- ② 発想や構想をしたことを基に、意図に応じて工夫して表すことに取り組もうとする。

7 本時の展開 【11/13】

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
導入	<p>1 裏手彩色の手順や効果を振り返り、裏手彩色のポイントを理解する。</p> <div data-bbox="240 324 651 477" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《裏手彩色のポイント》</p> <p>① 絵の具と水の量</p> <p>② 筆の使い方</p> <p>③ グラデーションの表現</p> </div> <p>2 本時のめあてを知り、学習の見通しをもつ。</p> <div data-bbox="309 607 1077 658" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて：配色計画を基に、主題に合った表現を工夫しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・裏手彩色のポイントを3つ提示し、前時までの学習を振り返ることができるようにする。 ・裏手彩色を効果的に活用している作品を示し、ポイントを理解できるようにする。 ・配色計画で考えた色彩を表現するために彩色見本カードを配付する。 ・本時のめあてを提示し、生徒が学習の見通しをもつことができるようにする。 	
展開	<p>3 友人の作品を鑑賞し、参考になる部分を自分の配色計画へ生かし、改善する。</p> <p>4 作品の進捗状況から完成までを見通して、本時の計画を立ててワークシートに記入する。</p> <p>5 意図に応じた彩色に近付いているか確認しながら裏手彩色を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裏手彩色のポイントを基に、友人の作品をグループで鑑賞するように伝える。 ・鑑賞した友人の作品の右側の余白に、裏手彩色のポイントに応じてシールを貼っていくことで、鑑賞した内容を可視化できるようにする。 ・裏手彩色のポイントに応じて貼るシールの色は事前に指定しておく。 <div data-bbox="707 996 1161 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《シールの色》</p> <p>赤 絵の具や水の量を意識しながら制作できている。</p> <p>青 筆の使い方を意識しながら制作できている。</p> <p>緑 グラデーションの表現を取り入れながら制作できている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の活動に難しさを感じている生徒には、机間指導の際に教師がシールを貼り、どの裏手彩色のポイントに基づいて表現できているかを示したりすることで、活動への見通しと意欲をもつことができるようにする。 ・次時が制作の最後の時間であることを伝え、見通しをもって制作を進めるよう促す。 ・作品を見直し、必要に応じて彩色見本カードを参考にしながら、自分の意図に応じた彩色を意識して裏手彩色するように伝える。 ・裏手彩色のポイントに沿って表現の工夫をしている生徒作品を見付け、ほかの生徒と共有できるように紹介する。 ・表現する活動に難しさを感じている生徒には、裏手彩色のポイントについて実演を交えながら説明し、生徒と実際に試したり主題を確認したりしながら、生徒自身が表現したいことを整理できるようにする。 	<div data-bbox="1189 1682 1473 2063" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>知・技 発想や構想をしたことを基に、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解し、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表している。【作品、単色刷りのデータ、活動の様子】</p> </div> <p>態表 発想や構想をしたことを基に、意図に応じて工夫して表そう</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 制作が進んでいる生徒には、裏手彩色のポイントに沿って作品を見直すように伝える。 	と取り組んでいる。 【作品、活動の様子】
終末	<p>6 片付けを行う</p> <p>7 本時の活動を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動の振り返りをまとめを行うことを伝える。 次時が制作の最後の時間であることを伝える。また、刷り、配色計画、裏手彩色の活動については次時に振り返ることを伝える。 	

8 本時の評価規準と判定基準【判断の目安】

	本時の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
知・技	<p>○発想や構想をしたことを基に、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解し、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表している。 【作品、単色刷りのデータ、活動の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「おおむね満足できる」状況【B】 配色計画を基に、絵の具と水の量の調節や、筆づかいからなる色の重ね方などを用いて意図に応じた彩色ができています。 「十分満足できる」状況【A】 身に付けた裏手彩色の生かし方を基に、表現方法について試行錯誤を重ね、意図に応じて創意工夫し、よりよく表している。 「努力を要する」状況【C】と判断される生徒への指導の手立て等 裏手彩色のポイントについて実演を交えながら説明し、裏手彩色の方法を実際に試すように促したり、再度主題を確認して生徒自身が表現したいことを整理したりする。
態表	<p>○発想や構想をしたことを基に、意図に応じて工夫して表そうと取り組んでいる。 【作品、活動の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「おおむね満足できる」状況【B】 配色計画を基に、絵の具と水の量の調節や、筆づかいからなる色の重ね方などを用いて意図に応じた彩色をしようとしている。 「十分満足できる」状況【A】 身に付けた裏手彩色の生かし方を基に、表現方法について試行錯誤を重ね、意図に応じて創意工夫し、よりよい表現を目指して粘り強く表そうとしている。 「努力を要する」状況【C】と判断される生徒への指導の手立て等 裏手彩色のポイントについて実演を交えながら説明し、裏手彩色の方法を実際に試すように促したり、生徒自身が表現したいことを一緒に整理したりするなどして、再度主題について考えることができるようにする。